



東亜ディーケーケー株式会社
平成28年3月期第2四半期決算資料
(東証1部:6848)

平成27年10月

平成28年3月期第2四半期決算サマリー



- 新たな3ヶ年中期経営計画「HYBRID経営計画」を4月からスタート
- 売上高は国内・海外輸出の伸長及び不動産賃貸事業の増収もあり合併以来過去最高
- 収益は売上拡大に伴う粗利益の増加が販売費の増加を上回り増益
- 単月黒字化73ヶ月連続記録更新中(平成21年9月から6年1ヶ月)

(単位:百万円)

	H26.2Q 実績	H27.2Q 実績	前年同期比増減	
			金額	%
売上高	6,395	6,669	274	4.3
営業利益	399	453	53	13.4
経常利益	415	480	64	15.5
四半期純利益	226	281	55	24.6

計測機器事業(増収・増益)

売上高6,536百万円(4.2%増)、経常利益399百万円(14.2%増)

- ・ 国内は、設備投資環境が慎重な姿勢で推移している中、①環境・基本プロセス分析機器分野の環境用大気測定装置は好調裡に推移、②科学分析機器分野の医療用関連機器は新製品の投入で需要が回復③産業用ガス検知警報器の顧客需要の掘り起こしで回復④保守・部品の増加により増収
- ・ 海外は、中国(環境用)及び韓国(上下水道用)向け水質計が堅調に推移し増収
- ・ 利益面は、為替の円安傾向が続き、輸入製品のコストアップ分を販売価格に転嫁することが厳しい状況の中、当社固有の技術力と比較的高占有率を誇る基本プロセス計測器群(水質計)の伸長がこれを十分にカバーし増益

不動産賃貸事業(増収・増益)

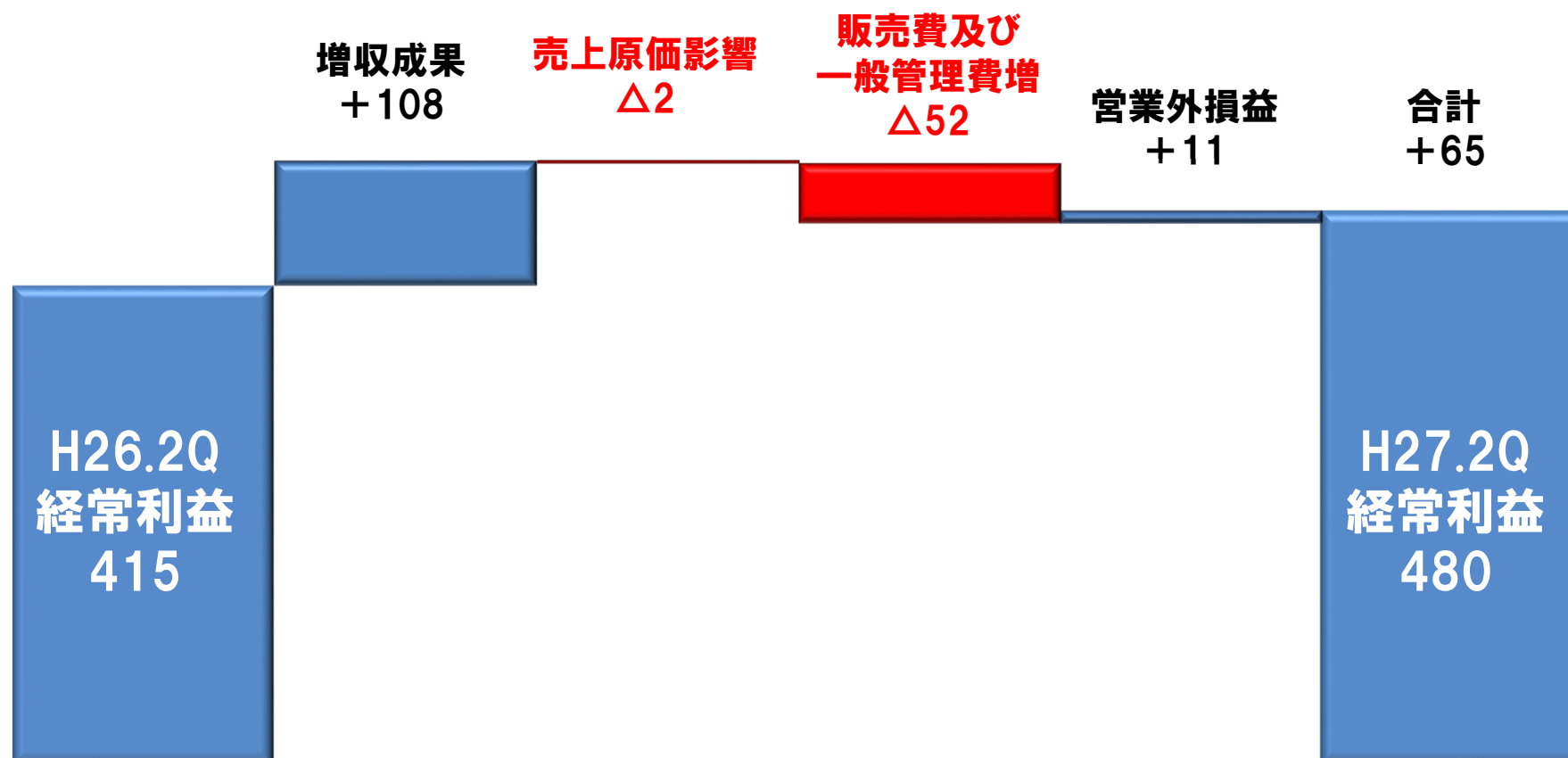
売上高133百万円(10.6%増)、経常利益80百万円(22.5%増)

- ・ 本社隣接の賃貸ビルが満室となり増収・増益

第2四半期経常利益増減分析



(単位:百万円)

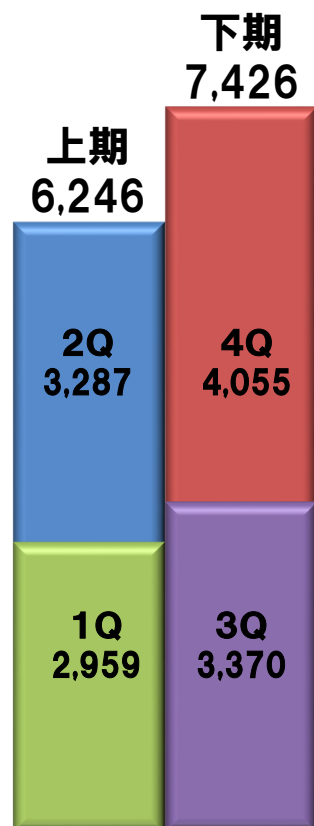


売上高四半期推移



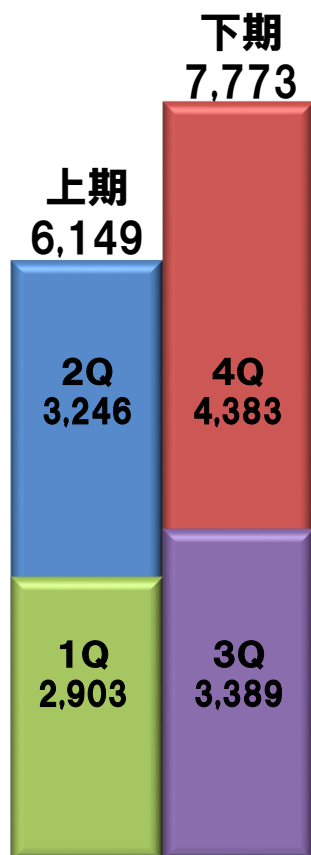
(単位:百万円)

通期 13,672



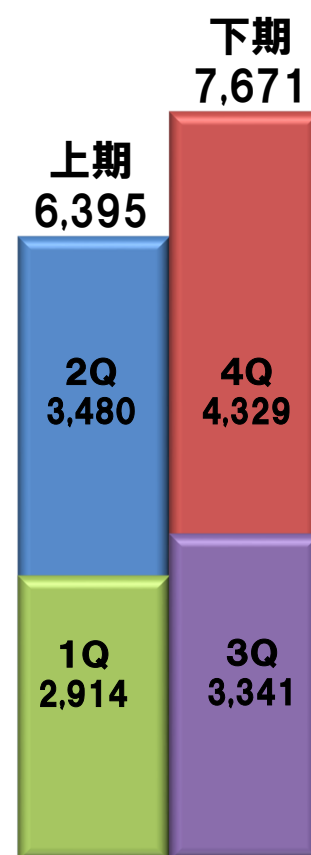
24年度

通期 13,923



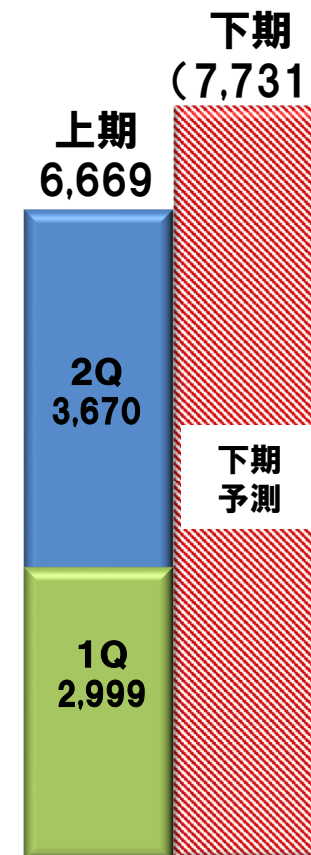
25年度

通期 14,066



26年度

通期 (14,400)

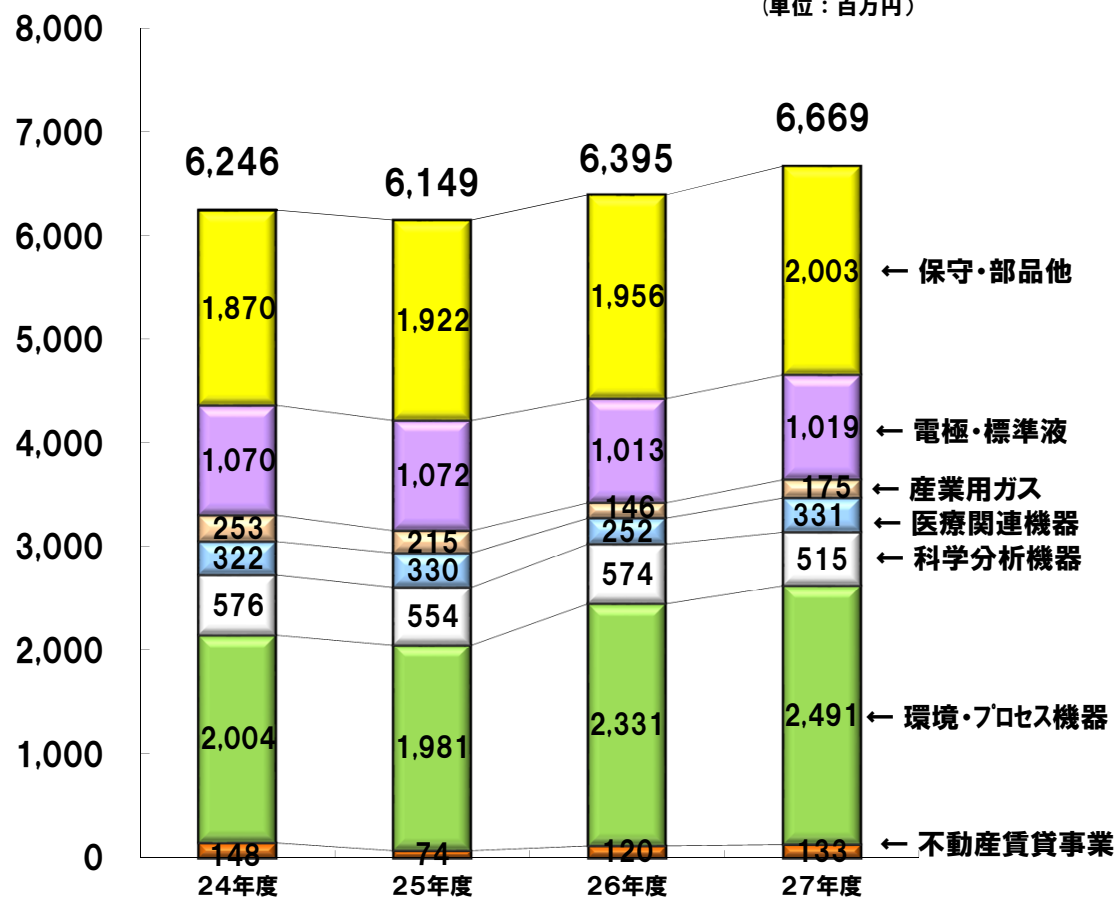


27年度

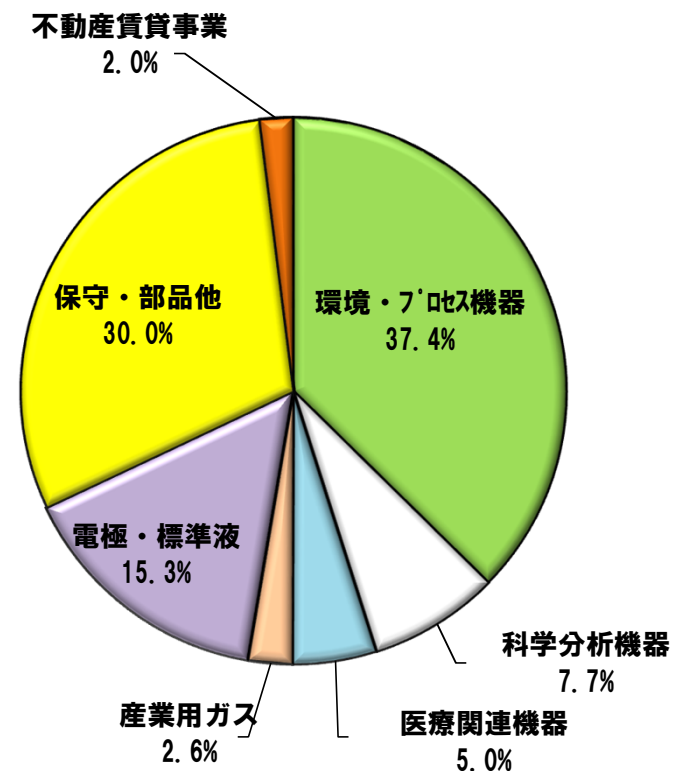
第2四半期売上高推移と構成比

売上高推移

(単位：百万円)



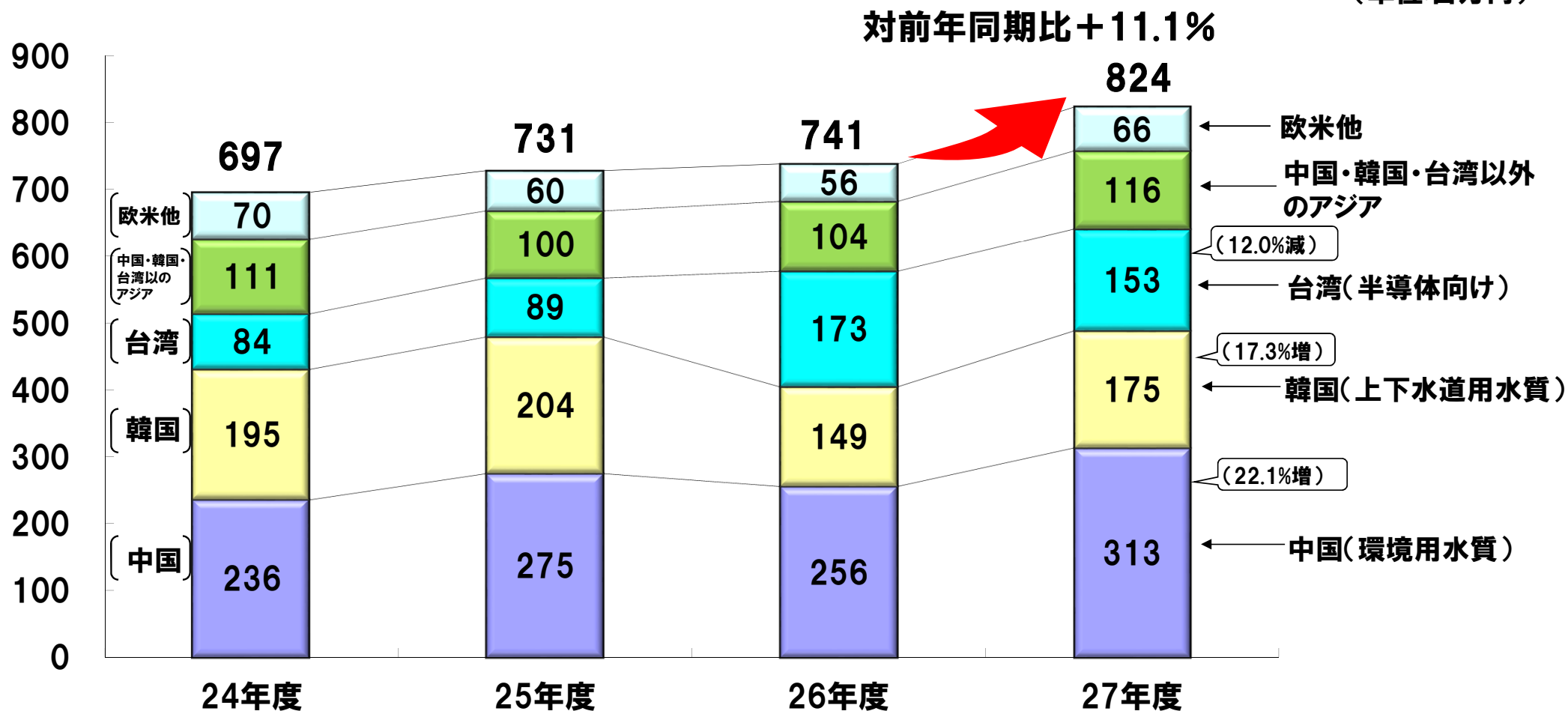
売上高構成比



海外売上高第2四半期推移



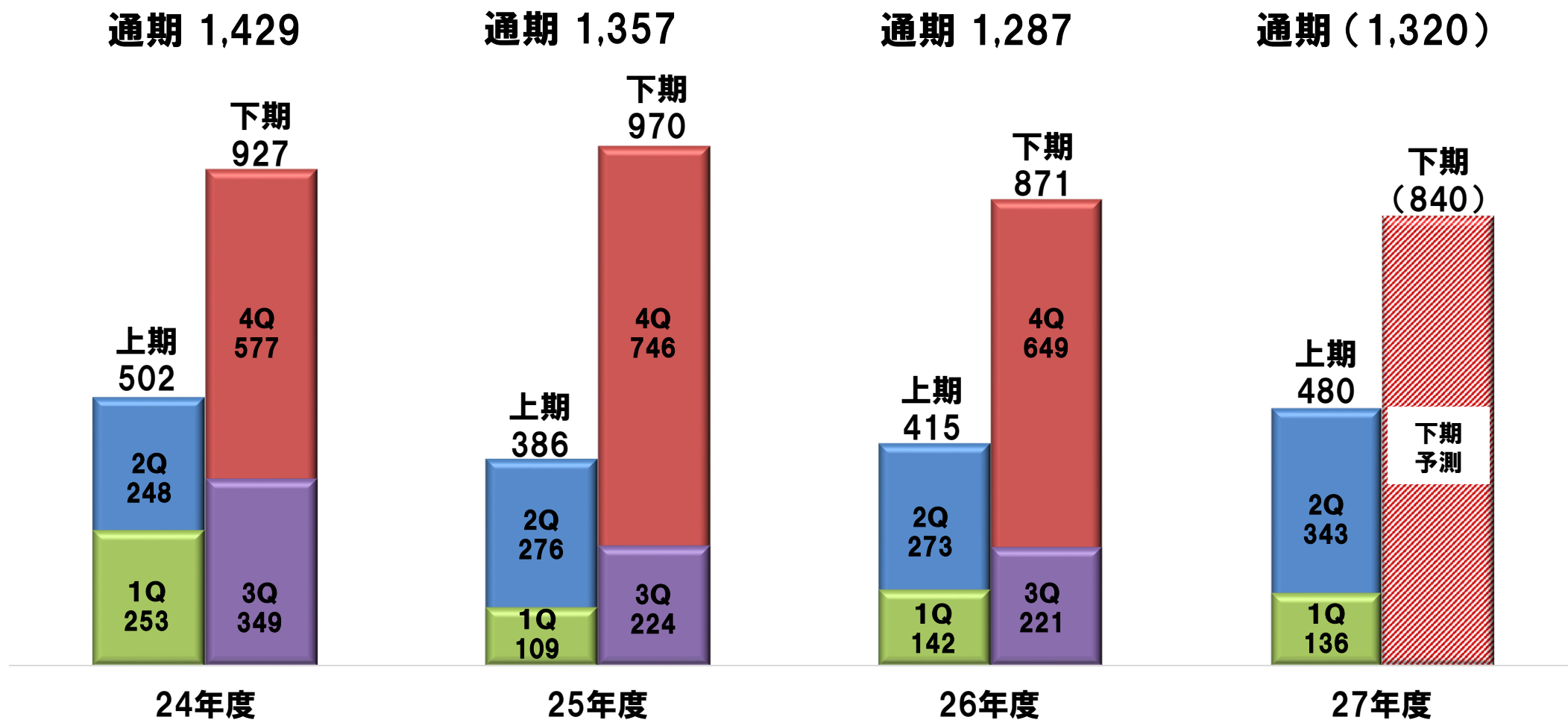
(単位:百万円)



経常利益四半期推移



(単位:百万円)



貸借対照表、損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書(要約)



貸借対照表

(単位:百万円)

	前期 27年3月末	当期 27年9月末	増減額
(資産の部)			
流動資産	12,539	12,310	△229
固定資産	5,680	5,473	△206
有形固定資産	3,219	3,123	△95
無形固定資産	478	430	△47
投資その他の資産	1,982	1,919	△62
資産合計	18,220	17,783	△436
(負債の部)			
流動負債	3,037	2,746	△290
固定負債	3,143	2,994	△149
負債合計	6,181	5,741	△439
(純資産の部)			
株主資本	11,289	11,353	63
資本金	1,842	1,842	-
資本剰余金	1,297	1,297	-
利益剰余金	8,161	8,225	63
自己株式	△11	△11	△0
その他の包括利益累計額	748	688	△60
その他有価証券評価差額金	770	707	△62
退職給付に係る調整累計額	△21	△18	2
純資産合計	12,038	12,042	3
負債純資産合計	18,220	17,783	△436

損益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 26年4月1日 26年9月30日	当第2四半期 27年4月1日 27年9月30日	増減額
売上高	6,395	6,669	274
売上原価	3,892	4,061	168
売上総利益	2,502	2,608	105
販売費及び一般管理費	2,102	2,155	52
営業利益	399	453	53
営業外収益	33	34	0
営業外費用	17	7	△9
経常利益	415	480	64
特別損失	0	※4	4
税金等調整前四半期純利益	415	475	60
法人税等	189	194	4
四半期純利益	226	281	55

※ 特別損失の内3百万円は筑波営業所閉鎖に伴う減損損失。

キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

	前第2四半期 26年4月1日 26年9月30日	当第2四半期 27年4月1日 27年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	772	649
投資活動によるキャッシュ・フロー	△240	△84
財務活動によるキャッシュ・フロー	△323	△306
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額	208	258
現金及び現金同等物の期首残高	2,813	3,353
現金及び現金同等物の期末残高	3,021	3,612

平成28年3月期業績予想(修正なし)



- ・ 主力の環境・プロセス分析機器は、国内では環境省第5次水質総量規制時に導入した機器の更新需要が本格化するとともに、海外では中国を始めとするアジアを中心とした環境保全意識の高まりにともなう計測機器需要の増加が今後も期待。また、科学分析機器は医療関連機器分野の回復傾向と、11月から販売予定の卓上型水質計の新製品「Xシリーズ」に期待。
- ・ 当期連結業績予想は概ね計画通り推移しており、現時点では平成27年5月8日に公表の通期の業績予想の修正はなし。

(単位:百万円)

	H27.3 実績	H28.3 予想	増減	
			金額	%
売上高	14,066	14,400	334	2.4
営業利益	1,265	1,300	35	2.8
経常利益	1,287	1,320	33	2.5
当期純利益	759	900	141	18.5

(1)クウェート国KCCEC社と販売代理店契約を締結

平成27年9月9日、クウェート国のエンジニアリング会社 KCCEC社(KCC Engineering and Contracting Company)と販売代理店契約を締結。

経営戦略の一つに海外販売の拡大を掲げ、中国、韓国等のアジア諸国と並び中東地域でのプラント用分析計の需要獲得も重要課題。クウェート国においては、従来より国内プラント各社を通じて多数の発電所に納入実績があり高評価。今回、MEW(水・電力省)など、クウェート国の政府機関への納入実績も豊富なKCCEC社との契約を機に、環境意識の高まりをみせる中東地域で更なる販売拡大を目指す。



(2)新製品紹介

平成27年11月から、主力機種の一つである卓上用水質計をフルモデルチェンジした「Xシリーズ」全6種の販売を開始。

本シリーズは、従来シリーズのモデルチェンジ品で、機能やユーザビリティを向上させ、ラボ測定に最適な水質計として提案。上位モデルには大型カラータッチパネルを搭載し、視認性・操作性・メンテナンス性も向上。電極には測定項目ごとに異なるカラーを用いて識別しやすくしたほか、より柔軟なリード線を採用して使い勝手を向上。本モデルの投入により、当社のコア技術であるラボ用分析計の売上増進を図る。



1. 本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
2. 本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
3. 将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用ください。
4. 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
5. 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、皆様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

＜お問い合わせ＞
東亜ディーケーケー株式会社
経営企画部 企画・IR課

電話:03-3202-0242
メール:ir@toadkk.co.jp
URL:<http://www.toadkk.co.jp/>